

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079200285
法人名	有限会社 ケアシステム
事業所名	グループホーム香春
所在地	福岡県田川郡香春町香春776-2 (電話) 0947-32-7700

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年11月11日	評価確定日	平成19年12月25日

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	4月	1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人			
職員数	14 人	常勤	12人,	非常勤	2人,	常勤換算	9.74人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	4,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年10月1日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	1名	要介護2	7名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 79歳	最低	61歳	最高	102歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐柳医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は住宅街の中に位置し、近隣には学校や神社があり、古くからの地域の交流も残されている。平屋建てで2つのユニットは廊下で繋がっているが、個別に玄関を持っており、ユニット独自の活動を行いながら、日常的に交流もできる構造になっている。職員は日常的にユニット間で交流し、双方の利用者の状態把握に努めている。日常生活は利用者個々のペースで穏やかに送られており、自分から要望等を表明することが困難な利用者に対しても、本人、家族から情報収集し好みの活動を複数提示し、その中から選べるように準備するなど個別に対応したケアが実践されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、ミーティングの開催や緊急対応マニュアル作成等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、計画作成担当者や介護職員と意見交換を行い、全職員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催している。事業所のサービス内容や取り組みを報告している。委員からは意見等を聴取し、地域や家族との交流、事故やヒヤリハットの報告、感染症対策等について、書類の整備や日常のケアの面でサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族から食事や個別の対応について意見、要望が出され、その都度対応している。また、家族がより意見を伝えやすいように、直接代表者へ意見や苦情を伝えられる仕組みをつくり、不安の解消に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭り等の行事に参加し、自治会長を通じて交流を図っている。日常的に、利用者の知人等が訪問するなどの交流がある。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念をつくりあげ、利用者のケアに努めているが、地域密着型サービスの視点が加わっていない。	○	全職員で協議等を行い、これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝、夕の申し送り時に、個別に応じたケアを職員との意見交換を行いながら検討したり、家族の情報をもとに個別への理解を深め、人格を尊重し、個々に応じた介護を提供するという理念を実践している。	○	地域密着型サービスの視点を加えた事業所独自の理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭り等の行事に参加し、自治会長を通じて交流を図っている。日常的に、利用者の知人等が訪問するなどの交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、計画作成担当者や介護職員と意見交換を行い、全職員で取り組んでいる。前回評価での改善課題については、ミーティングの開催や緊急対応マニュアル作成等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行っている。事業所のサービス内容や取り組みを報告している。委員からは意見等を聴取し、地域や家族との交流、事故やヒヤリハットの報告、感染症対策等について、書類の整備や日常のケアの場面でサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常の行き来の場で、代表者と行政職員の個人的な交流はあるが、事業所としての交流やサービスの質の向上に関する積極的な協働には至っていない。	○	事業所側から積極的に行政担当者と交流を図り、事業所に関する理解、関心を高めたり、行政と協働して地域の認知症ケアの関する啓発活動を提案する等、積極的に働きかけてほしい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度及び権利擁護事業に関する資料は揃えて、いつでも閲覧できるようにしている。制度に関して、利用者や家族等への説明は行っていない。	○	制度に関する研修や勉強会を通じて、職員の理解を深め、利用者や家族等へいつでも説明が行えるよう取り組んでほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、手紙や写真を送付し、家族来訪時や電話で健康状態等の状況報告を行っている。状況の変化があれば、その都度電話等で連絡し、相談している。金銭管理については、月1回、出納の明細と領収書を添付して送付している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から食事や個別の対応について意見、要望が出され、その都度対応している。また、家族がより意見を伝えやすいように、直接代表者へ意見や苦情を伝えられる仕組みをつくり、不安の解消に努めている。苦情対応窓口に関しては重要事項説明書等に明示し、契約時等に家族等へ説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の表情や様子を見ながら、個別にスーパーバイズしたり、待遇の改善を行い、離職を防ぐ配慮をしている。職員が交代や異動する際は、事前に利用者等に説明を行い、情報の伝達を十分に行っている。また、日常的にユニット間の交流を行い、異動によるダメージを防いでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。採用の基準は性格が明るく、利用者に節度を持って接することができる人材を選んでいる。採用後は、異動、昇進等で差別的な扱いをすることはない。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日頃から、利用者の尊厳や人権を尊重することを全職員で心がけ、対応している。	○	内部または外部研修への参加の機会を設けて人権教育を実施し、また、研修受講の際はその記録を残し、いつでも記録を閲覧できるようにしてほしい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員については、管理者がそれぞれの能力に応じて個別指導している。	○	積極的に外部研修へ参加する機会を確保し、全職員への研修情報の提供する等、内外研修の徹底とその記録を残してほしい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所間で管理者等の交流はあり、情報交換を行っている。	○	管理者だけでなく、職員も含めた同業者と交流する機会を持ち、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしてほしい。
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、職員は自宅等へ訪問面接を行い、また見学を実施する等し、本人が納得した上で安心してサービスを利用できるよう、家族等と相談しながら工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と共に掃除や調理等の家事活動を行い、利用者本人の自信や、やりがいに繋がるように配慮している。職員が利用者から励まされる場面がある等、支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望等を聴き、個別の活動や一日の過ごし方を支援している。また、意志疎通の困難な利用者は、家族等から情報を得て、本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の意見等を反映し、職員間で意見を交換を行った上で担当者会議を行い、介護計画を立てている。家族に説明し、同意を得ている。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は4ヶ月に1回及び更新時に行っている。状態変化時は、その都度見直しをしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が入院した際に、医療機関と話し合いを密にし、早期退院に向けた支援をしている。本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医等の医療面の対応を話し合い、利用者一人ひとりの希望に応じて対応している。家族等と受診時の通院介助の方法、情報の伝達方法について話し合い、合意している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針がある。また、事業所が対応し得る最大の支援方法について、入居時または折に触れて、本人、家族へ説明を行っている。状態に応じ、本人、家族の意向をよく聴き、医療機関、職員と全員で方針を共有し、話し合いながら、常に対応を検討している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者本人の状態や周囲の状況を配慮して、適切な言葉を選んで対応しており、言葉かけも穏やかである。日常的に個人情報やプライバシーに関して管理者等から話をしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や起床、就寝の時間、活動の時間等、本人の希望、状態に応じて柔軟に対応しながら、1日のリズムを作れるようにしている。日中の個別の活動も、利用者一人ひとりの希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は、一緒に準備や食事、片付けをしている。	○	利用者と職員が共に暮らす視点から、同じテーブルで同じ物を食べ、一緒に味わいながら、食事をしてほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望に合わせて、毎日入浴できるように支援している。入浴拒否する利用者には、時間をかけ対応し、入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、洗濯、ビーズ細工、編み物、食事の片付け等、役割や楽しみごと等の支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や天候等に配慮しながら、毎日の散歩を支援している。また、月1回の買い物や3ヶ月に1回のバスハイクに参加する等、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠していない。常に見守りを行うとともに、個別の状態や外出傾向を把握するよう努め、落ち着かないときは付き添って、散歩に行く等して対応している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。事業所単独で非常災害訓練を実施している。	○	今後はいざという時のために事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加や協力を得ながら、避難訓練等を実施してほしい。また、非常食や備品を準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は、利用者の意見や季節感に配慮しながら、医師のアドバイスを受けて作成している。栄養摂取量及び水分摂取量について、全利用者分の記録がある。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花を飾る等し、季節や自然を感じられるように配慮している。共用空間の採光は十分で、テレビの音量に関しては、利用者の希望にそって音量を調整している。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの馴染みの家具や生活用品、写真等を持ち込み、それぞれ居心地のよく過ごせるような工夫をしている。</p>		

※ は、重点項目。